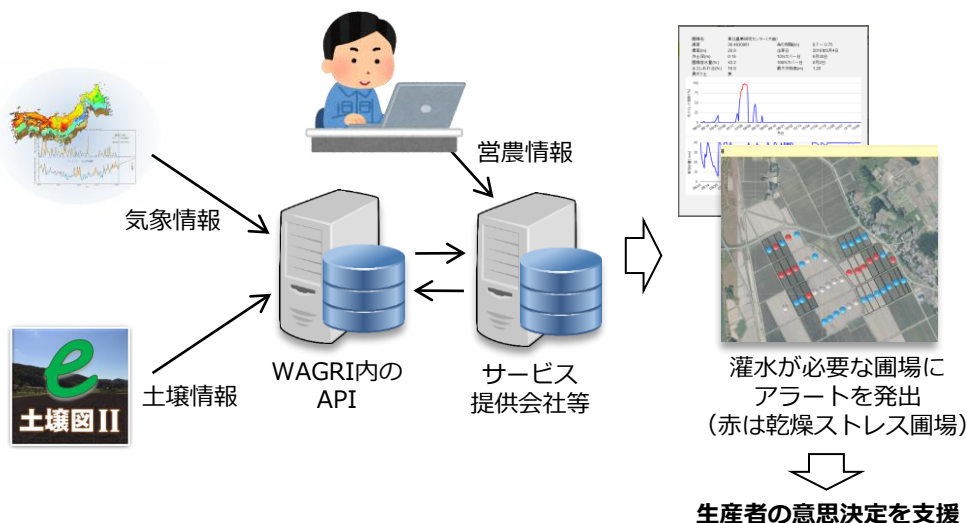


大豆の適期灌水のために乾燥ストレスを「見える化」する技術です

大豆作ではしばしば乾燥ストレスを生じるため、灌水を行うことがあります。しかし適期を見誤ってしまうと湿害を助長するおそれがあるため、適期の判断は難しいことでした。本システムは、メッシュ農業気象情報、土壌情報およびユーザーの営農情報から、大豆畑作土の体積含水率を日単位で「見える化」し、灌水の意思決定を支援するwebシステムです。



センサーは不要 営農データと農研機構の情報サービスから「見える化」します



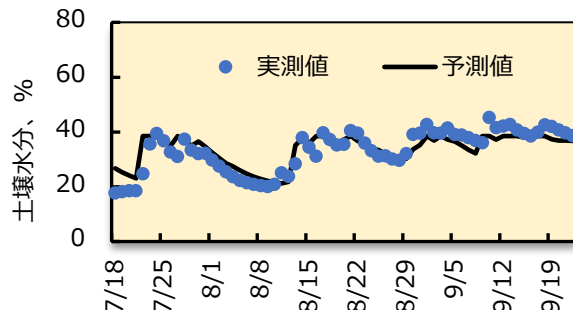
生産者が以下に示した営農情報をweb上で登録します。

- ・ 緯度経度
- ・ 出芽日
- ・ 播種条間
- ・ 土壌データ (推定値による代替も可)
- ・ 耕深
- ・ おおよその最大草高

これらの情報と農研機構の情報を組み合わせ、乾燥ストレスが生じる日を予報値を含めて推定します。

予測精度が高く、現地実証の実績もあります

登録された圃場の土壌水分を高い精度で推定し、乾燥ストレスを診断します (右図)。このシステムが発出したアラートにしたがった灌水で、**29%の増収効果**が実証されています。



さらに知りたい方は…

実際にためしてみる (デモ版)

栽培管理支援システムの一部として以下のURLにて、デモ版が公開中です。

<https://agmis.naro.go.jp/>

商業利用向けサービスが始まります

Web-APIを今年度内に提供予定です。

問い合わせ

農研機構東北農業研究センター

研究推進部 事業化推進室

E-Mail: jigyoka@ml.affrc.go.jp

Tel: 019-643-3412